

公表	事業所における自己評価総括表 2026年度
----	-----------------------

○事業所名	こどもプラス行徳教室			
○保護者評価実施期間	2026年 6月 1日 ～ 2026年 6月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2026年 6月 1日 ～ 2026年 6月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 7月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの発達に応じた運動療育を実践している。	一人ひとりの発達状況や特性に応じた運動プログラムを実施し、楽しみながら身体機能の向上や社会性、自己肯定感を育めるよう支援している。	発達状況や支援ニーズを定期的に評価し、より効果的な運動プログラムや活動内容の充実を図る。
2	保護者との信頼関係を大切にし、家庭と連携した支援を行っている。	送迎時の会話や連絡帳、面談などを通して日々の様子や成長を丁寧に共有し、家庭と連携した支援に取り組んでいる。	保護者への情報提供や相談の機会をさらに充実させ、家庭と協力しながら継続的な支援体制を強化する。
3	成長に応じた切れ目のない継続支援を提供している。	成長や発達に合わせて支援内容を柔軟に見直し、切れ目のない継続的な支援を実践している。	将来を見据えた支援計画の充実を図り、ライフステージの変化に応じた支援体制を整えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動療育の目的や支援内容をより分かりやすく伝える工夫が必要である。	送迎時は時間が限られており、活動のねらいや支援の意図、成長の過程を十分に説明する機会が少ない。	写真やおたより、個別面談などを活用し、活動内容や支援の目的、成長の様子をより分かりやすく発信していく。
2	職員の専門性をさらに高める取組が必要である。	発達支援や運動療育に関する知識・技術は継続的な学びと実践の積み重ねが求められる。	年間研修計画に基づき、事業所内研修や外部研修への参加を継続し、支援力の向上につなげる。
3	地域や関係機関との連携体制をさらに充実させる必要がある。	保育所・幼稚園・関係機関との情報共有や連携の機会に差が生じる場合がある。	保護者の同意を得ながら関係機関との情報共有や連携を積極的に進め、一貫性のある支援につなげていく。